

(3) 越智今治ブロック（今治市、上島町）

～産地づくり～

西日本豪雨災害からの復興とさらなる発展のため、かんきつ類などの果樹のブランド産地を目指し、県オリジナル品種や既存の主力品種を最大限に活かせる栽培技術の確立を強力に推進するとともに、生産技術の高位平準化にも取り組みます。また、県オリジナル品種等の導入が進む野菜・花き、新たに産地化が期待されている「オリーブ」や「醸造用ぶどう」など、生産者の所得確保・向上につながる品種・品目の推進により、地域の特色を活かした産地振興に取り組みます。

～推進品目や産地づくりの方向～

〇マルドリ栽培によるブランド果実生産とかんきつ産地の振興

【取組】

- ①「愛媛果試第28号」大玉を確実に生産する技術の実証
・朝倉ハウス団地及び新規参入者にモデル園を設置
- ②「甘平」優良果を確保するための摘果技術の実証
・あら摘果時に10果/樹容積 m^3 以下に抑制した実証園を設置
- ③「愛媛果試第48号」の苗木育成を推進
・6月（新梢伸長期）と3月（剪定前）に地区別講習会を開催（延べ6回）

【成果】

- ①「愛媛果試第28号」4L～2L果率：57%
- ②「甘平」実証園の裂果率：15.2%（対照区の1/4）
〃 単収：1.8 t（目標：1.2 t）
- ③「愛媛果試第48号」栽培面積：10.6ha



「甘平」摘果実証園の状況
（R7.9.5時点）



「愛媛果試第48号」の
現地指導

〇しまなみ産「レモン」の周年供給によるブランドカアップ

【取組】

- ① 夏季生産誘導と、夏季出荷生産技術指導
- ② レモン栽培の新規施設化の推進
- ③ スマート農業技術（ドローン防除）の実証と普及啓発
- ④ 栽培講習会等を通じた品質向上技術の指導強化
- ⑤ 早期成園化のための技術指導（実証ほ設置、整枝剪定研修会開催）

【成果】

- ① 夏季出荷量：400kg（目標：2,000kg）
- ② 1戸の新規就農者がハウスを新設（6a）
- ③ ドローン防除によるミカンハダニ剤1剤の実用性検討
・実演会：5人
・農業者視察研修：15人
- ④ 栽培講習会（15回）及び研修会（1回）での技術指導
：参加者延べ338人
- ⑤ レモン整品率：58.4%
・整枝剪定と樹形作りに係る実証ほの設置：1か所
・栽培講習会において、苗木整枝及び剪定の研修会：2回
（岩城、上浦 参加者40人）



レモン整枝技術研修会



MR（ドローン）防除実演会

○地産地消の推進に向けたエコ栽培農産物等の栽培力アップ

【取組】

- ① 地元学生や消費者等を対象に、地産地消を推進
- ② 小麦の栽培面積維持と需要開拓
 - ・小麦生産者へ有望新品種及び地産地消の取組みに係る勉強会を開催（1回）
- ③ エコ栽培農産物生産の取組推進

【成果】

- ① 地元中高生対象に、農作業体験を実施：5回
- ② 小麦栽培面積：32ha
〔R6：32ha、R5：49ha、R4,3：47ha〕
- ③ エコえひめ認証制度に基づく生産登録数：39件〔R6：42件〕



いちごの管理作業・収穫体験（高校生）



かんきつの収穫作業体験（中学生）

○地域振興野菜・花きの生産推進による農家所得の向上と産地振興

【取組】

- ① 収益性の高い土地利用型農業を実現するさといも産地の拡大
 - ・優良種芋更新促進のため、親芋直接苗採取法を実証
- ② 甘長とうがらしの生産振興と、ブランド化の推進
 - ・肥料コスト削減に向けた単肥配合及び廃液利用技術の実証・確立
 - ・EC、pHセンサーのIoT化による養液のモニタリング実証
- ③ 花き花木の生産振興と高温時期の栽培技術指導
 - ・挿し木講習会（3回）、高温時期の地区別巡回（3回）

【成果】

- ①
 - ・栽培面積：37.0ha〔R6年比：99%〕
 - ・さといも優良種苗新增殖技術協議会を立ち上げ
- ②
 - ・出荷量：73,709kg〔R6年比：101%〕
 - ・単肥配合技術の土耕栽培への利用拡大
 - ・土壌水分値等に基づいたかん水指導を通じ、夏季の高温対策を強化
 - ・産地販売金額：50,172千円〔R6年比：105%〕
- ③
 - ・花木産地販売金額：26,390千円〔R6年比：113%〕



さといも新規栽培希望者説明会



花木の挿し木講習会

○「オリーブ」と「醸造用ぶどう」の新たな産地の育成

【取組】

- ① 栽培管理マニュアルを活用した担い手の確保・育成
- ② 生産加工事業者のグループ化による地域農業ブランドの構築
- ③ 地元のイベントや観光拠点での販売、PR活動
- ④ 県外等でのPR・販売フェアの開催
- ⑤ SNS等での商品、産地情報の発信

【成果】

- ①
 - ・オリーブの栽培面積：9ha〔R6：9ha〕
 - ・醸造用ぶどうの栽培面積：3.5ha〔R6：3.5ha〕
- ②
 - ・しまなみみんなのディッシュ会員数の増加：41人
 - ・グループ商品数の増大：148品
- ③
 - ・せとうちみなとマルシェでの自主的な出店：11回
 - ・常設販売コーナーの開設：12店
- ④ イベント、期間限定フェア等での出展4回
- ⑤ SNSポータルサイトのアクセス数増加：19,415回



「道後商店街」店舗常設販売コーナーの設置



地元テレビ局の取材を通じたオリーブのPR

～地域づくり～

農業・農村を支える多様な担い手を確保・育成するため、新規就農者や農業参入企業等に対し、関係機関が連携して研修制度や受入体制の充実・強化に取り組みます。また、グリーン・ツーリズムによる起業活動等を支援するとともに、女性の農業経営への参画を促進し、女性農業指導士とともに優れた女性経営者を育成します。さらに、集落ぐるみで取り組む鳥獣被害対策など、地域を取り巻く課題に対応した支援を強力に展開します。

～推進対象や地域づくりの方向～

○意欲ある就農者のスキルアップによる担い手育成

【取組】

- ① 就農・移住フェアや就農相談会での相談対応（4回）
- ② 就農啓発パンフレット作成
- ③ 就農啓発講座（1回）と農業体験活動（3回）の開催
- ④ 就農前研修会の開催（就農に必要な制度・事業の周知：1回）
- ⑤ 新規就農者と生産者の交流会開催（1回）
- ⑥ 新規就農者の経営早期確立に向けた支援
- ⑦ 青年農業者と女性農業者のスキルアップを目的とした講習会等を実施

【成果】

- ① 相談等を通じて、3名が農業次世代人材投資事業（就農準備資金）を活用し、農業研修を開始
- ② 就農啓発パンフレット作成：1,000部
- ③ 参加者
 - ・就農啓発講座：65人
 - ・農業体験活動：延べ45人
- ④ 就農前研修会参加者：12人
- ⑤ 交流会参加者：35人
- ⑥ 新規就農者を重点的に、個別指導を実施
- ⑦ 青年農業者・女性農業者への講習会：5回



就農相談を実施



農作業体験



個別巡回指導

○水田を活用したスマート農業の実現

【取組】

- ① ドローンを活用した防除作業の省力化技術の普及
- ② 営農データの「見える化」や生産性向上に向けて、営農管理システム等の導入推進

【成果】

- ① 水田におけるドローン防除の普及面積：120ha
〔R6：116ha、R5：182ha、R4：176ha、R3：156ha〕
- ②
 - ・電子化された、ほ場地図と作業記録及び収穫量等をクラウドで一括管理し、複数ほ場の最適な営農計画を策定する営農管理システムの導入：3集落営農組織
 - ・上記の営農管理システムと繋がるコンバインから得られる食味及び収穫量のデータを活用し、次作の栽培管理を改善する取組を実施：1集落営農組織



IOT水管理システム



収量コンバインによる
データ収集

～推進対象や地域づくりの方向～

○実践集団の育成と捕獲技術の向上による鳥獣被害対策の支援

【取組】

- ① 加害鳥獣対策の実証及び普及
 - ・鳥獣被害から農作物を守るモデル園を設置
- ② 関係機関、取組集落間のネットワークづくり
 - ・面的対策拡大のための取組集落間ネットワークづくりを支援
- ③ 鳥獣害を受けにくい集落づくり支援

【成果】

- ①
 - ・モデル園を設置し、研修会を開催：1か所
 - ・簡易低コスト防鳥施設による侵入防止効果の実証：3か所（計4か所）
- ②
 - ・今治地域鳥獣害防止対策協議会を開催し、情報を共有：1回
 - ・ネットワークづくりを支援：7集落
- ③
 - ・集落ぐるみの地域体制づくりの醸成に向け、集落点検活動を通じて、省コスト複合柵の実証普及：2集落
 - ・研修会を通じ、新規就農者の捕獲・防護対策技術向上を支援：3人
 - ・えひめ地域鳥獣管理専門員と連携し、効果的な侵入防止対策を指導
 - ・新たなえひめ地域鳥獣管理専門員を育成：1人



二ホンザル防止実証ほにおいて現地点検



えひめ地域鳥獣管理専門員の現地実習

～農業・農村の整備～

○生産基盤の維持・強化

【取組】

- ① 基幹的農業水利施設の長寿命化対策を推進
- ② 通作条件の改善等につながる農道整備を推進
- ③ 担い手の確保・定着につながる樹園地整備を推進
- ④ 点滴かんがいに対応した樹園地整備を推進

【成果】

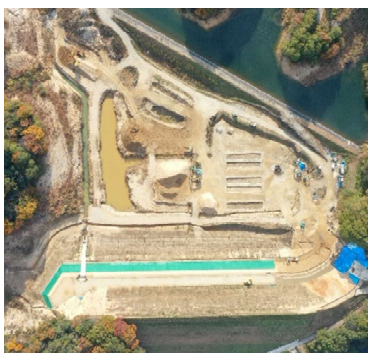
- ① 基幹的農業水利施設の長寿命化対策を実施：4地区
（歌仙地区、菊間地区、頓田川沿岸地区、蒼社川地区）
- ② 農道整備を実施：歌仙3期地区（1,300m）
- ③④ 樹園地の再編復旧を実施：上浦地区（6.7ha※）
（内訳 井口工区：1.6ha、盛工区：4.5ha、古戸工区：0.6ha）



捕獲技術向上に向けた研修会



樹園地の再編復旧
（上浦地区盛工区）



ため池の改修
（犬塚地区・犬塚池）

○安全・安心に暮らせる農村の整備

【取組】

- ① 県営事業による防災重点ため池の改修及び耐震化を推進
- ② 団体営事業による防災重点ため池の改修を支援
- ③ 団体営事業による防災重点ため池の廃止を支援

【成果】

- ① 県営事業で防災重点ため池の改修及び耐震化を実施：7地区・8池※
（R7も同地区で実施）
（内訳 犬塚地区（犬塚池）、波止浜地区（尾池）、医王地区（医王池）、
亀岡地区（防象池、魚谷池）、棚井上池地区（棚井上池）、
御城地区（御城池）、三戸地区（三戸池））
- ② 防災重点ため池の改修：2地区（大畑地区、江良地区）
- ③ 防災重点ため池の廃止：4地区（扇谷地区、相谷地区、大江地区、中刳石地区）

○農業・農村の多面的機能の維持発揮活動の支援

【取組】

- ① 多面的機能支払交付金の交付により地域の共同活動を支援
- ② 中山間地域等直接支払交付金の交付により中山間地域における農業生産活動の継続を支援

【成果】

- ① 地域協働による水路の泥上げや農道、水路、ため池堤体の草刈りなどの活動を実施：30組織（今治市29組織、上島町1組織）
- ② 中山間地域における農業生産活動を継続：31組織（今治市）



共同活動（水路の泥上げ）

～地域の特性と時代の変化に柔軟に対応し畜産基盤の継承を図ります～

○次世代の担い手への経営継承支援

【取組】

- ・新技術の活用や生産性向上による経営安定、家畜伝染病予防の衛生対策に取り組むための資機材を希望する農家に対し、活用可能な補助事業や資金について情報提供
- ・県事業による施設・機材の整備を支援

【成果】

- ・地域の畜産クラスター協議会と連携のうえ、畜産生産基盤維持強化支援事業を活用し、施設の機能向上や長寿命化等による補改修等を整備：2農場
- ・家畜衛生推進協議会が主体となり、家畜自衛防疫対策支援事業を活用し、農家の衛生対策強化に資する資機材を整備：9農場



石灰散布機



農場内消毒用動力噴霧器

○地域畜産ブランドの販売力強化

【取組】

- ・県開発ブランド「愛媛あかね和牛」の生産体制強化のための衛生管理技術指導

【成果】

- ・定期的な衛生検査により、農場内の病原体浸潤状況を把握：4農場
- ・検査結果に基づき、感染予防対策を指導：4農場
- ・安全な畜産物の生産・供給に向け、対象疾病の防除による生産性向上を支援：4農場



愛媛あかね和牛

○家畜伝染病発生予防のための技術指導等

【取組】

- ① 家畜伝染病のまん延防止体制の推進
- ② 消毒や野生鳥獣の侵入防止等の飼養衛生管理の技術指導

【成果】

- ①
 - ・HPAI、CSFなどの家畜伝染病の発生に備え、農場毎の衛生対策指導を強化するとともに、今年は四国中央市において、県防疫演習を開催
(参加者：県、市町、畜産団体、協定締結団体関係者の約190名)
 - ・国内外の家畜伝染病の発生状況の情報提供と注意喚起
 - ・ヨーネ病の感染牛摘発及び地域における清浄性評価のため、家畜伝染病予防法第5条に基づき抗体検査を実施
(対象地域：今治市 ※旧 越智郡除く)
- ②
 - ・家畜伝染病予防法に基づき、養豚農家では豚熱の予防的ワクチン接種をR3年度より継続実施しており、引き続き適期接種を指導：3農場
 - ・愛媛県豚熱感染拡大防止対策協議会と連携し、R4年度より野生イノシシに対する豚熱経口ワクチンを散布：24地点（年4回）
 - ・立入検査により、野生動物の侵入防止対策や消毒等の飼養衛生管理の徹底を図るための衛生指導を実施：25農場



経口ワクチン散布



県防疫演習を通じて作業手順を確認